



2021 年度神奈川県教員研修(神奈川県教育委員会)

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2021 年 7 月 9 日 (金) 14:00-17:00

会場：オンライン開催(Zoom)

参加者：教員 39 名 (横浜翠嵐高等学校、横浜平沼高等学校、横浜緑ヶ丘高等学校、横浜国際高校、光陵高等学校、希望ヶ丘高等学校、川和高等学校、柏陽高等学校、多摩高等学校、横須賀高等学校、平塚江南高等学校、鎌倉高等学校、湘南高等学校、小田原高等学校、茅ヶ崎北陵高等学校、相模原高等学校、厚木高等学校、大和高等学校)

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ、神奈川県教員、青森県教員

はじめに、高校教育課指導主事である田中先生より、「この研修の目標は授業力の向上です。今回は最後にグループに分かれて意見交換を行う時間をとっているのです、お互いの学校の取り組みなどを共有し合って授業力向上に活かしていきましょう。」とご挨拶いただきました。

次に、PDA 代表理事中川より「話さざるを得ない環境づくりが重要。そのためには自らが経験してみることが手っ取り早い。ぜひ自己研鑽の機会として今日のディベート・ジャッジ実践を活用してください。」と前回の研修の振り返りが行われました。



田中先生によるご挨拶



PDA 代表理事中川によるご挨拶

そして、本日は青森県立青森高等学校の當麻進仁先生をお招きし、青森高校での即興型英語ディベートの導入や取り組みについてご講義いただきました。質疑応答では、実際に導入することを想定した質問がなされました。

その後休憩をはさみ、ディベートの実践を行いました。今回は初心者チームがディベートを行い、経験者チームがジャッジを行いました。論題は、“*It's better to have school lunch than making students bring their own lunch to school.*” (学校給食があったほうが生徒に弁当を持ってこさせるよりも良い。) でした。



當麻先生によるご講義



ディベート実践の様子

最後に、6つのグループに分かれ、自己紹介と、これまでそれぞれの学校で何をやっていたかについての情報共有を行いました。



討議の様子

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・先生方のスピーチからは本当に真似したい点が多くて、聞いているだけでとても勉強になりました。（柏陽高等学校）
- ・他校との意見交換は有益でした。（希望ヶ丘高等学校）
- ・當麻先生のお話はとても参考になりました。ディベートを独立させず、普段の授業と絡めて行うことの大切さをまた感じました。ありがとうございました。またこういった実践例を知りたいです。（大和高等学校）
- ・本日もありがとうございました。実践例を聞くことができ、授業イメージがより具体的にになりました。（湘南高等学校）
- ・他校の先生方とお話できて楽しかった。また講演者の方の実践の話は、ためになった。（鎌倉高等学校）
- ・青森高校の進仁先生の実践紹介がとても勉強になりました。ディベートを最終的な自己表現活動の手段にするのではなく、その後にスピーチやネゴシエーションを取り入れることで、ディベートで意見を言い切れなかった生徒に再チャンスを与えるという工夫が、生徒にとってとても有益であると感じました。スピーチの場合、アウトラインを作ることで、英語の論理構成に沿って落ち着いて文章を作ることもできるので、是非そのアイデアを参考にさせていただければと思います。教員が大学入試への合格だけを目標にしても、国際的に活躍できる生徒は育てられないと強く感じます。最終的に、どんな人材になって欲しいのかというところを、学校の英語科全体で共有することで、足並みが揃うのではないかと思います。今回は再度その大切さに気づくことができました。今後も、PDA の皆様のご協力を頂戴しながら、研修の成果を生徒に還元できるようにしたいです。PDA で研修をするようになってから、授業で生徒の欠員があると、必ずディベーターになって、生徒と練習する度胸ができました。やはり、教員がディベートをやらずして、指導はできないと思います。（柏陽高等学校）
- ・回数を重ねるごとに力の伸びを感じています。今後ともよろしくお願いします。（光陵高等学校）
- ・充実した時間となりました。ありがとうございました。（茅ヶ崎北陵高等学校）

1.8



PDA 大阪府立北野高校即興型英語ディベート

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2021年7月13日（火）15:30-17:30

会場：オンライン（Zoom）

参加者：生徒50名

ジャッジ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ、京都大学

はじめにPDAスタッフよりルールの確認、POI(Point of Information)の練習を行いました。POI練習では、しっかりPOIのポーズをきめることができました。



POIの練習

実践（1）の様子

「ディベートをするのは今日が初めてな人はいますか？」と聞くとほとんどの生徒が手を挙げ、緊張した様子が見られましたが、即興で反論や再構築を考えることが難しいと感じつつも、なんとか考えたことを英語にしようとする様子が見られました。ディベート後は各テーブルについているジャッジから勝敗と個人コメントが述べられ、すぐに活かせるアドバイスもらった生徒たちは、次に活かそうと前向きに取り組む様子が見られました。



ジャッジによるフィードバック



メモを取りながらジャッジからのコメントを真剣に聞いています

実践（２）の様子

実践（１）でディベートの流れを把握し、実践（２）では POI にチャレンジしたり、反論や再構築にチャレンジしたりする様子が見られました。ジャッジからのコメント後はジャッジに対して質問を行い、ディベートについてより深く理解しようとする積極的な姿勢が見られました。



ジャッジへ質問しています

LEJ
Certified Educational Judge



ディベート後のフィードバック

最後に、２ ラウンド目でベストディベーターに選ばれた生徒が「考えるのが楽しかった。」
「昨年から成長したと実感できてよかった。」「視野が広がった。」と感想を述べました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・去年は全く喋る事が出来なかったのに、今年は喋る事ができ、成長を実感できた。
- ・なかなか思ったことが出てこなかったけれど、グループの人と協力してできたので嬉しかったです。
- ・自分達だけで即興で意見を考えるのは難しかったけれど、その分面白かった。
- ・即興で考えるのが難しく、これからもっと練習したいと思った。
- ・その場で論を組み立てて発表するのはとても難しかったし緊張したけれど、いい経験になった。もっと上達できるように頑張りたいと思った。
- ・自分の語彙力や視野の狭さなど欠点が色々見つかり、これからの勉強にいかしていきたいと思った。
- ・こう言えばよくなったなっていうのがたくさんあったので、今後勉強して、自分の意見を簡潔にみんなにわかりやすく伝えられるようになりたい、と思うきっかけになった。
- ・もっと英語の表現を見につけたり自分の言うことを整理する力をつけたいです。
- ・自分と他の人との考えの違いを知ること、視野が広がり、もっと頑張ろうと刺激を受けることができた。
- ・相手の意見が、自分の予想と違ったり違う表現を使ったりしてなるほど！と思い、楽しかったです。
- ・本当に楽しかったです。今後もディベートを続けて、もっと深みのある議論ができるようになりたいと思いました。
- ・最初は本当に何も話せず、難しくやめようかと思ったけれど、自分の主張が伝わったとき、楽しかったし、なにより嬉しかったです。ディベートを通して英語力はもちろん、伝える力や論理的思考力、相手を納得させる力がついたと思います。これらの力は英語ディベートのときだけでなく、日常生きていく上でも活用できるし、必要な力だと思うので、たくさん練習して、より上手になりたいと思いました！
- ・即興で英語を話すのは難しく、考えをうまく表現出来なかったことは悔しかったのでもっと自分の実力をあげたいと思いました。
- ・初めてのディベートで、少し不安な所もあったけど相手の意見を聞いてメモを取ったり、チームメイトと協力してテーマを決めて実践していくうちにやり方やコツが掴めてきて、楽しむことが出来ました。今回の体験で英語ディベートの楽しさや奥深さを知ることが出来たのでこれからもぜひ続けていきたいです。

1.9



PDA 奈良県立奈良高校即興型英語ディベート

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2021年7月14日（水）14:00-16:30

会場：オンライン（Zoom）

参加者：生徒24名

ジャッジ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ、九州大学

はじめにPDAスタッフよりルールの確認とPOI(Point of Information)の練習を行いました。相手のスピーチ中に質疑応答を要求できるPOIについてポーズも決めて練習することができました。

実践（1）の様子

ルールの確認を終えると早速実践です。相手のスピーチを聞いて即座に反論をしたり、再構築をしたりすることに難しさを感じつつも、相手の伝えたいことを理解し、返答することができました。ディベート後はエアー握手を交わしました。ジャッジからのフィードバックでは「主張を説明するときは必ずその理由と具体例も話してみよう」など具体的なアドバイスを受けました。



POIの練習の様子



ジェスチャーをしながらスピーチ

実践（2）の様子

実践（1）でジャッジから受けたアドバイスを活かし、理由や具体例を交えたスピーチが行われました。自身の経験を活かした具体例を提示したり、複数の具体例を提示したり、甲乙つけがたい説得的なスピーチの応酬となりました。



堂々とスピーチする様子

最後に、2ラウンド目でベストディベータに選ばれた生徒が「難しいと思ったが成長を感じた。」「さまざまな意見を知ることができて楽しかった。」と感想を述べました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・英語でディベートする機会は初めてだったので、とても良い経験になりました。ありがとうございました。
- ・やる前はずっと緊張していましたが、やってみるととても楽しかったです。
- ・もっとスムーズにわかりやすく英語を話せるようになりたいと思った。
- ・説得力を持たせて主張するのが難しかった。
- ・楽しかったけど、難しかった。言えなかったことが言えるようになるように練習したいと思う。
- ・頭使った。
- ・とても疲れたけどこれから英語をきちんと話せるようになろうと思うきっかけになりました。
- ・語彙力は思ったより無くても、伝わるがあったので、表現の次第で変わるものなんだなと感じました。
- ・普段したことのないことをしたので、凄く疲れたんですが、同時にとてもいい経験をさせて頂いたなと思いました。今日自分って本当に英語が話せないんだなと実感したので、もっと英語を話す勉強をしたいなと思いました。ありがとうございました。
- ・自分の意見を上手く表現出来なくてもどかしかった。
- ・理由や具体例を言うことまで気が回らなかったのも、自陣の主張の補強だけでなく相手の主張を受けて反論することを次は心がけたい。
- ・使いたかったけど使えなかった表現もいっぱいあるので、それを次に繋げたいと思います。最初思っていたよりも楽しかったです。
- ・即興で考えて英語で議論するのが、頭も使うしスリルもあるしで楽しかったです。終わった後の達成感も良かったです。
- ・即興で英語を考えるのは難しかったですが、頭を使って論を組み立てるのとても勉強になりました。良い経験になりました。ありがとうございました。

1.10



PDA 滋賀県立彦根東高校即興型英語ディベート

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2021年7月21日（水）13:00-15:00

会場：オンライン（Zoom）

参加者：生徒6名

ジャッジ：PDA スタッフ

はじめに PDA スタッフよりルールの確認や POI(Point of Information)の説明を行いました。POIの練習では、片手を頭に乘せ、もう片方の手を伸ばす POI のポーズをしっかりと行うことができました。



実践（1）の様子

緊張した様子も見られましたが、ディベートが始まると POI がたくさん飛び交う活発なラウンドとなりました。相手の話をもっと詳しく聞きたいというときはすかさず POI を行い、「その理由はなんですか」など具体的な内容の質問も見られました。



準備時間の様子



スピーチの様子

実践（２）の様子

実践（１）でディベートの流れを把握し、実践（２）では理由や具体例を説明することを意識しながらスピーチすることができました。実践（１）同様、P O I も活発に交わされ、お互いのポイントを理解して深めようとする様子が見られました。

最後に、２ラウンド目でベストディベーターに選ばれた生徒が「２回目は１回目の反省を活かしてうまくスピーチすることができた。」「まとめや反論について学びがあった。」と感想を述べました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・自分の表現を伝える方法がわかったり、新しいことが知れた。
- ・皆で協力して一体感があった。難しかったけど達成感があった。
- ・初めての事であせるところはあったが2roundからは少し楽しめた。英文がつくれなかったりと大変でしたが少し楽しく感じました。
- ・きれいにサマリーができたり、自分のチームが勝てたりすると達成感を感じることができた。久しぶりに即興ディベートをしたので少し苦戦しましたが、自分のディベート力や英語力が高まっていくのを感じられてよかったです！

1.11

PDA即興型英語ディベート青森交流大会 2021

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2021年7月24日(土) 12:00-16:00

会場：オンライン (Zoom)

参加校：6校、10チーム (青森県立青森高校、八戸聖ウルスラ学院高校、青森県立青森南高校、青森県立八戸高校、青森県立六ヶ所高校、青森明の星高校)

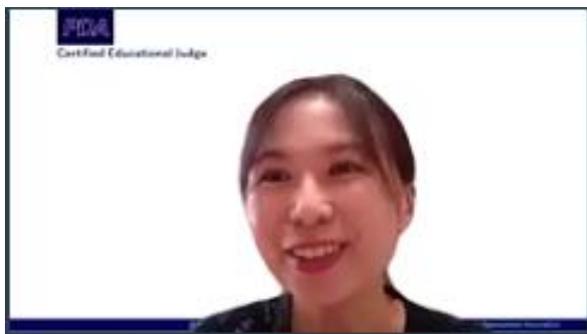
参加者：生徒33名、教員10名

スタッフ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ・三戸高校、PDA認定教育ジャッジ・青森南高校、PDA認定教育ジャッジ・青森高校、青森南高校、三本木高校、東京大学)

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)



開会式では、一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA) 代表理事中川智皓より、「他の学校の生徒との交流を深めてください。頑張ってください。」とエールが送られました。次に、青森県立青森南高校の中道校長先生より、「即興型英語ディベートでは複数のスキルを効果的に伸ばすことができます。間違いを恐れず頑張ってください。」と応援のメッセージが送られました。次にPDAスタッフより、参加した6校の学校紹介やPOI(Point of Information)の練習を行いました。



PDA 代表理事 中川智皓より挨拶

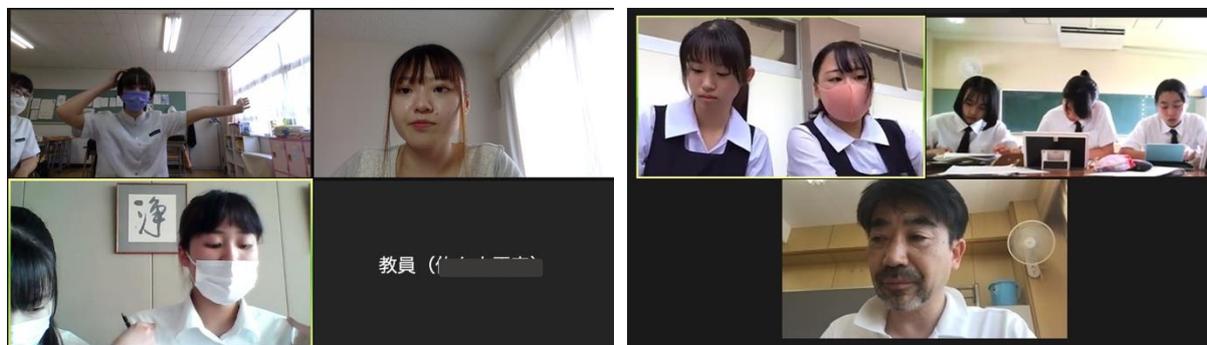


青森南高校 中道校長先生よりご挨拶



POI の練習

第1ラウンドのお題は「***We should outsource coaching of club activities.***(部活動の指導を外注すべきである。)」でした。現状の教員の負担について、部活の質についてなど様々な観点から議論が行われました。ディベート中はPOIも活発に行われ、議論を深めようと積極的に質問をしようと努めました。ディベートが終わるとジャッジがコメントをするまでの間、何年生かたずねたり、部活動について話したりする様子が見られました。



POI(上:聖ウルスラ学院高校,下:青森明の星高校) 堂々とスピーチ(左:青森南高校,右:八戸高校)

続く第2ラウンドのお題は、「***Accepting immigrants does more good than harm.***(移民の受け入れは害よりも利益をもたらす。)」でした。どのような産業で働くのか、日本人の就業はどう変化するのかなどについてお互いに意見を交わしました。ディベートが終わると、学校ではエアコンが使えるか、どんな勉強をしているのかなどについて話し、交流を楽しみました。ジャッジのコメントが始まると、今後のディベートに活かそうと真剣にフィードバックを聞く様子が見られました。



POIの様子(上:聖ウルスラ学院高校,下:青森明の星高校)

そしてジャッジが高く評価した生徒6名によるエキシビジョンディベートが始まりました。論題は「***Online learning should be introduced in high schools, and students should go to school only three days a week.***(高校では、オンライン学習を導入し、登校日を週3日にすべきである。)」でした。対面で授業を受ける必要性・重要性や新型コロナウイルス感染症予防について議論が交わされました。POIも飛び交い、甲乙つけがたいディベートとなりましたが、見学していた生徒・教員の投票により、僅差でGovernment(肯定側)の勝ちとなりました。



堂々とスピーチ(六ヶ所高校)



エキシビジョンディベートでもPOI!

閉会式では、PDA 代表理事中川智皓より、「他の学校の人と交流できましたか？」と投げかけられ、多くの生徒が「交流できた」と手を挙げました。「POI が活発に飛び交っていてとても良いディベートばかりでした。次は POI をするだけではなく、受けて返答するよう頑張ってみてください。」と激励の言葉が送られました。



PDA 代表理事 中川智皓による講評

最後に、2回ベストディベーターに選ばれた生徒が「昨年参加したが、この1年で自分が成長できたと感じた。」と青森交流大会の感想を述べました。



青森交流大会の感想を述べています

【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

- ・ PM _____さん (聖ウルスラ学院高校)
- ・ LO _____さん (八戸高校)
- ・ MG _____さん (青森明の星高校)
- ・ MO _____さん (青森高校)
- ・ LOR _____さん (六ヶ所高校)
- ・ PMR _____さん (青森南高校)



エキシビジョンディベータ賞

〈チーム賞〉

- ・ 1位 八戸聖ウルスラ学院高校 B
- ・ 2位 青森高校 B
- ・ 3位 青森高校 A
- ・ 4位 青森南高校 A
- ・ 5位 六ヶ所高校



1位 八戸聖ウルスラ学院高校 B



2位 青森高校 B



3位 青森高校 A



4位 青森南高校 A



5位 六ヶ所高校

〈ベストディベーター賞〉

- ・ _____さん (青森 A)
- ・ _____さん (青森 B)
- ・ _____さん (青森 B)
- ・ _____さん (青森南 A)
- ・ _____さん (青森南 B)
- ・ _____さん (八戸)
- ・ _____さん (明の星 A)
- ・ _____さん (明の星 B)
- ・ _____さん (八戸聖ウルスラ学院 A)
- ・ _____さん (八戸聖ウルスラ学院 A)
- ・ _____さん (八戸聖ウルスラ学院 B)
- ・ _____さん (八戸聖ウルスラ学院 B)



ベストディベーター賞

〈POI 賞〉

- ・ _____さん (明の星 A)
- ・ _____さん (青森 A)
- ・ _____さん (青森 B)
- ・ _____さん (八戸)
- ・ _____さん (八戸聖ウルスラ学院 A)
- ・ _____さん (八戸聖ウルスラ学院 A)
- ・ _____さん (八戸聖ウルスラ学院 B)
- ・ _____さん (八戸聖ウルスラ学院 B)



ベスト POI 賞

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・確実に英語力をつけることができました。（八戸高校）
- ・自分の考えを英語で発表して、練習の成果も発揮できた。賞を取れた。（青森高校）
- ・自分の周りのメンバーだけでなく他校の方と実際話をすることによって、楽しみながら自分のレベルを知ることができた。この活動を夏の1回だけでなく、今回の反省を生かすために年に何度か行えたらいいなと思った。（青森南高校）
- ・去年は不安な気持ちが大きかったけど、今年は自信をもって挑むことができました。（青森高校）
- ・緊張した！もっと英語頑張ろうと思った。（青森南高校）
- ・他チームの高校生からインスパイアされることもたくさんありました。何よりこの大会とそれまでの練習期間で仲間との絆が深まったことが本当に嬉しかったし、楽しい過程でした。ありがとうございました。（八戸聖ウルスラ学院高校）
- ・他校の英語の上手な方とお話しすることができ、とても楽しかったです。今回初めての参加だったのですが、他校の皆さんの英語力に圧倒されとても緊張しました。ですが楽しかったです。（六ヶ所高校）
- ・自分の主張を英語で述べ合うことで、本格的な英会話を自分自身の力でできていると実感できた。緊張したけど、どの高校もとてもレベルが高かったけど、そんな人たちと英語で会話出来ている、伝わっているということを実感できることがとても楽しかったです。（八戸高校）
- ・英語でのスピーキングやリスニングなどのスキルがとても刺激されました。またこのような機会があれば、ぜひやりたいです。（青森南高校）
- ・練習で見つけた改善点を解決することができた。これからもディベートの力を向上させていきたい。ディベート楽しい!!（八戸聖ウルスラ学院高校）
- ・成長を感じれた。（青森高校）
- ・初めての経験で、全てが新鮮だった。初めてでとても緊張しましたが、練習の成果を出せたので良かった。（六ヶ所高校）
- ・初めて他校の生徒と意見交換をしてみて、自分の力不足を実感したとともに、とても生き生きとした話し合いができたと感じた。チーム内での話し合いがあまり上手くいきませんでした。なんとか言いたいことを言えたと思います。リスニング能力をもっとつけたいと思います！（青森高校）
- ・生徒同士が楽しく、難しいお題に積極的に自分の意見を話すことに感銘を受けました。（教員）
- ・本校の生徒にとって非常に有意義な時間となり、大会運営に携わっていただいた全ての方々に感謝です。また、他校の生徒さんのレベルの高さにも驚きました。（教員）
- ・社会的話題を英語で論理的にやり取りしている生徒たちの姿勢が素晴らしかった。（教員）

1.12



PDA 香川県立高松高校即興型英語ディベート

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2021年7月27日（火）13:00-15:00

会場：オンライン（Zoom）

参加者：生徒8名

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ

はじめに PDA スタッフよりルールの確認や POI(Point of Information)の練習を行いました。POIは相手のスピーチ中に行くと、質疑応答を要求することができる重要なルールです。片手を頭に乘せ、もう片方の手を伸ばすという POI のポーズをしっかりと練習することができました。



POI の練習

実践（1）の様子

緊張した様子も見られましたが、ルールをしっかりと確認しながら堂々とスピーチをすることができました。ジャッジからのフィードバックでは、内容だけでなく、表現の観点からもコメントがあり、次の実践でアドバイスを活かそうと真剣にフィードバックを聞く様子がみられました。

実践（2）の様子

実践（1）でディベートの流れを把握し、実践（2）ではより長い時間スピーチを行い、理由を説明するだけでなく描写をする様子が見られました。



準備時間の様子



ディベートの様子



ジェスチャーを用いてスピーチ



ジャッジからのフィードバック

最後に、2ラウンド目でベストディベーターに選ばれた生徒が「2回目は1回目の反省を活かしてうまくスピーチすることができた。」「まとめや反論について学びがあった。」と感想を述べました。

参加者の声（アンケートより抜粋）

- 1回目は難しかったけど、2回目は自分の意見を思うように主張できたので良かったです。
- 楽しかったし、教えていただいたフィードバックはとてもためになると思いました。良かった部分、改善点を意識してこれからもディベートをしたいです。
- 今回の体験会は自分の良いところや改善点を改めて見つめる良い機会になりました。今回の経験を生かして、自分の良さを伸ばし、悪い点を改善していきたいと思います。
- 相手の主張をききとれても、すぐに強い反論を考え出せなかったのが悔しかったです。
- 実際にやってみて、相手を納得させる難しさと自分の表現語彙の少なさを実感しました。もっと勉強して語彙を増やして自分の言いたいことをサラッと表現できるようになりたいです。
-

1.13



PDA 滋賀県立膳所高校即興型英語ディベート

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2021年7月30日（金）13:00-15:00

会場：オンライン（Zoom）

参加者：生徒7名

ジャッジ：PDA スタッフ

はじめに PDA スタッフがルールの確認と POI(Point of Information)の練習を行いました。即興型英語ディベートをするのが初めてだという人は手をあげてくださいと聞かれるとたくさん手が上がり、少し緊張した空気が画面越しに伝わる中、早速実践が始まりました。



POIの様子

実践（1）の様子

相手の話をしっかり理解し、反論や再構築をするとても議論の噛み合ったディベートが展開されました。POIでは「その具体例は？」という質問に対し、複数の具体例を返答するなど、POIを通して議論を深める様子も見られました。



POIで質疑応答

実践（２）の様子

実践（１）でジャッジから受けたフィードバックを早速活かし、理由づけや具体例の説明に工夫が見られました。全員スピーチ時間が実践（１）よりも長くなり、時間いっぱいスピーチをすることができました。



最後に、２ラウンド目でベストディベータに選ばれた生徒が「即興型英語ディベートをするのは初めてだったが、コメントのポイントを活かすことができた。」「去年も参加したが成長を感じることができた。」と感想を述べました。

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・いろいろな学びがありました。自分の英語で意見を言えて嬉しかったです。
- ・日本語では思い浮かんでも、英語に直す時にウツてなるのがまだ沢山あって、もっと英語を練習したいなと思いました。スラスラ言えるように頑張りたいです！
- ・初めてディベートをしたのでとても難しかったです。反論は先に考えておいてそれを言えばいいと思っていたら、思ったのと地味に違うのがきて混乱したり、即興で文を作るのが難しかったりしたのでしっかり英語を聞けるようになりたいと思いました。
- ・去年も参加させてもらいましたが、今回のイベントでは、この一年での自分の成長を感じることができました。とても嬉しかったです。ありがとうございました。
- ・本日はありがとうございました。私は初めてでよくわからないところも多かったのですが、丁寧なアドバイスなどで「ああこうすればうまく行くんだなあ」と思いました。最後にお二人もおっしゃっていましたが、私も今回のアドバイスを生かして次はもうちょっとまじにディベートできたらと思います。

ベストディベーターに選ばれた皆さん

_____ さん
_____ さん
_____ さん
_____ さん

ベスト POI に選ばれた皆さん

_____ さん

1.14



PDA 愛媛県立松山東高校・京都府立堀川高校即興型英語ディベート

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2021年8月4日（水）09:30-11:30

会場：オンライン（Zoom）

参加者：松山東高校：生徒22名・教員1名、堀川高校：生徒2名・教員1名

ジャッジ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ、九州大学

はじめに PDA スタッフがルールの確認と POI(Point of Information)の練習を行いました。「POIのポーズとはどんなポーズでしょうか？」と質問をすると、全員が片手を頭にのせ、もう片方の手を伸ばす POI のポーズを披露しました。



ルールの確認



POIの様子

実践（1）の様子

具体例として友達のエピソードを詳細に説明したり、例を複数提示したり、説得的なスピーチをしようとする工夫が多く見られました。即興型英語ディベートでは、相手のスピーチに対し即興で反論や再構築をする必要がありますが、ときには POI にもチャレンジしながら相手のスピーチを理解し、切り返すことができていました。



堂々とスピーチする様子

実践（２）の様子

実践（１）でジャッジから受けたフィードバックを活かそうとテキパキとチームメイトと準備を始めました。ディベートでは、一つの主張に対して複数の理由を提示したり、論題のキーワードの特徴を捉えた分析を説明したりなどより説得的なスピーチをする様子が見られました。



複数の分析を説明



健闘をたたえあうエアークラップ

最後に、２ラウンド目でベストディベーターに選ばれた生徒が「深入りした反論などについて学ぶことができた。」「自分では思いつかなかった考えが知れて新鮮だった。」「どのように内容を深めれば良いのか知れた。」「相手の影響を小さく見せるにはどうしたら良いのかを学ぶことができた。」と感想を述べました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・自分たちの意見を強めるためには例示や説明を時間の許す限り付け加えていくことが勝利に繋がることを学べたので、これからの部活ではそれを意識して頑張りたいと思いました。ありがとうございました！
- ・フィードバックがきちんとできたので、不明点や掘り下げた内容などがわかりやすく、面白かったです。
- ・その場でいろんな、たくさんのことを学べる即興型英語ディベートって最高だなと改めて思いました。
- ・ディベートの深め方や今まで知らなかったことを学べてとても楽しかったです。
- ・他校の人たちと交流することで自分たちの中にはなかった意見を聞いたのですごくよかったです。
- ・チームで協力しながら、限られた時間の中で意見を述べるのが楽しかったです!いろいろな技術を身につけられたと思います!楽しかったです。
- ・自分が思いもつかなかった意見に出会えて、それに瞬時に対応するのは、難しいことだけど、またしたい。
- ・英語でまとまった文章を話すこと、ディベートといった形式で論理的に話す練習ができたことが楽しかったです。即興型ということで、用意なしですることは難しかったです、意見の効果的な伝え方や反論の仕方を考えて伝えていくということがとても興味深く面白かったです。また、ジャッジの先生方が、ディベート後すぐにレビューしてくれて改善点がわかったのでよかったです。
- ・今回、自分がどれだけ語彙がないか、視点が偏っているか思い知らされた。普段から表現をもっと磨いていきたい。
- ・フィードバックで沢山の改善点、意見を学べた。
- ・自分の意見をしっかり伝えることができた。
- ・もっと論理的な意見を言えるようになりたい。



一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2021年8月6日(金)～7日(土)

(1日目) 練習3ラウンド、予選1

(2日目) 予選2、予選3、キーノートレクチャー、レクリエーション、準決勝、決勝

会場：Zoomにてリモート開催(大阪府立大学内に本部設置)

主催：一般社団法人 パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

後援：文部科学省

助成：公益財団法人日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

協力：大阪府立大学



参加者数：401名(54校)

(北海道) 札幌聖心女子学院高等学校(岩手県) 岩手県立一関第一高等学校、岩手県立盛岡第一高等学校(栃木県) 栃木県立佐野高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立宇都宮東高等学校、作新学院高等学校(群馬県) 高崎市立高崎経済大学附属高等学校

(長野県) 長野県伊那北高等学校、長野県長野高等学校、長野県屋代高等学校、長野県松本県ヶ丘高等学校(富山県) 富山国際大学附属高等学校(福井県) 福井県立藤島高等学校

(茨城県) 東洋大学附属牛久高等学校(千葉県) 翔凛高等学校(東京都) 武蔵高等学校中学校、品川女子学院高等部、獨協高等学校、白百合学園高等学校、東京都立大泉高等学校、東京都立清瀬高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校(神奈川県) 浅野高等学校、栄光学園高等学校、湘南白百合学園高等学校、聖光学院高等学校、神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、神奈川県立相模原高等学校、神奈川県立湘南高等学校、神奈川県立大和高等学校(岐阜県) 岐阜県立岐阜高等学校(愛知県) 愛知県立半田高等学校(三重県) 三重県立四日市高等学校(京都府) 京都府立嵯峨野高等学校(大阪府) 関西大倉高等学校、関西創価高等学校(兵庫県) 神戸市立葺合高等学校、雲雀丘学園高等学校、神戸大学附属中等教育学校、兵庫県立相生高等学校、報徳学園高等学校(山口県) 山口県立山口高等学校(徳島県) 徳島県立城ノ内高等学校(愛媛県) 愛媛県立松山東高等学校(福岡県) 福岡県立城南高等学校、福岡県立東筑高等学校、福岡県立朝倉高等学校(熊本県) 熊本県立第二高等学校、熊本県教育委員会(宮崎県) 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

(鹿児島県) 鹿児島県立鹿児島中央高等学校、鹿児島県立大島高等学校

(順不同)

開催趣旨：

〈高校生向けプログラム〉

本合宿・大会は、即興型英語ディベートの実践を中心としたプログラムで、集中的に「英語での発信力」、「論理的思考力」、「幅広い知識」、「プレゼンテーション力」、「コミュニケーション力」を鍛えます。大学生・大学院生をはじめとした補助スタッフによる手厚い指導も伴い、効果的に上記スキルを向上させます。合宿での集中実践の成果を効果的に発揮できるよう、後半には大会を設けています。また他校生徒との交流も深まります。

〈高校教員向けプログラム〉

本合宿・大会では、生徒のみならず、教員を対象としたプログラムを同時に進行させます。授業に導入できる即興型英語ディベートの手法を知っていただく、また即興型英語ディベート実践を経験していただくプログラムとなっています。授業での導入を前提とするため、合宿では一つのコマを約50分としています。

論題（論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます）：

論題 1 : Cosmetic surgery should be banned.

（美容整形を禁止すべきである。）

論題 2 : It is better to be single for life than to have a family.

（家族を持つより、生涯独身を遂げた方がよい。）

論題 3 : China should abolish its restriction on the number of births.

（中国の出産数制限は撤廃すべきである。）

論題 4 : Vaccination against COVID-19 should become mandatory.

（新型コロナウイルスのワクチン接種は、強制とすべきである。）

論題 5 : Male employees should be forced to take parental leave.

（男性の育児休暇取得を強制すべきである。）

論題 6 : School rule regarding appearances should be abolished.

（外見に関する校則は撤廃すべきである。）

論題 7 : The Tokyo Olympics should have been cancelled.

（オリンピックは中止すべきであった。）

論題 8 : Teleworking makes people happy.

（テレワークは人々を幸せにする。）

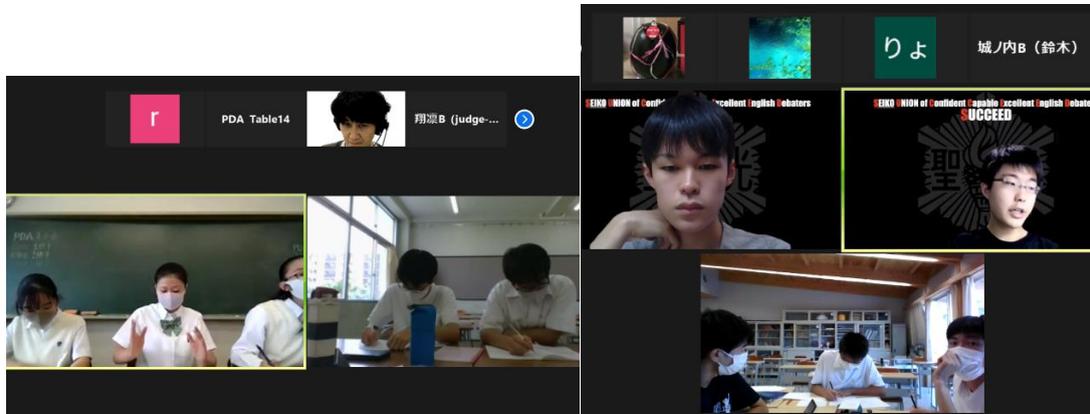
1 日目

開会式では、まず今回の参加校の紹介がなされました。カメラとマイクのチェックも兼ねて学校の名前が呼ばれると挨拶をしました。スタッフの紹介、合宿スケジュールの確認、ルール諸注意が行われました。今回は、生徒（授業の部、課外活動の部 初心者、課外活動の部 一般）、教員（初心・一般、認定、受験）の部が同時進行で行われます。授業の部においては、学校の通常授業において即興型英語ディベートに取り組んでいる学校を対象とし、普段の授業への積極的な参加の成果を発揮する場、また合宿で学んだことを各校に持ち帰るシステムとしています。

練習ラウンド1の論題は「美容整形を禁止すべきである」です。教員の部はラウンドをジャッジする先生、生徒の様子を見学する先生に分かれました。生徒たちはそれぞれの経験を参考にどのような議論ができるかブレーストシート（アイデア出しシート）にメモしていきましました。ディベートが終わると、他校の生徒と自己紹介をし、現在の学校の状況などを話し合う姿が見られました。

練習ラウンド2の論題は「家族を持つより、生涯独身を遂げた方がよい」です。生徒自身が将来独身か家族を持つかを意識しており、自身の考えに基づいて議論を展開する様子が見られました。

練習ラウンド3の論題は「中国の出産数制限は撤廃すべきである」です。ラウンド2と同様の家族に関する議論や中国全体としての労働人口に関する議論が見られました。



練習ラウンドの様子①

練習ラウンドの様子②



練習ラウンドの様子③

練習ラウンドの様子④



教員ラウンドの様子①

教員ラウンドの様子②

また、練習ラウンド中は各テーブルで生徒にもジャッジ役を割り振り、他の生徒のディベートを聞いて勝敗やその理由を振り返ってもらう練習をしました。ジャッジを務めることが初めてという生徒もいましたが、事前に行ったジャッジレクチャーの動画を参考に、客観的な視点でディベートを評価する体験は新鮮だった生徒も多かったようです。教員の部でもディベートが行われ、実際にディベータを体験すると同時にジャッジの練習をする機会が設けられました。

一日目の最後は、生徒の予選1です。予選1の論題は「新型コロナウイルスのワクチン接種は、強制とすべきである」です。練習ラウンドでディベータやジャッジを務めた経験を活かし、活発な議論が行われました。新型コロナウイルスの影響下に入ってから1年以上が経ち、実際にワクチン接種をする前の立場である生徒たちにとっても避けて通れない大切な議論となりました。



予選ラウンド1の様子①



予選ラウンド1の様子②

2日目

2日目は朝から予選2が始まります。予選2の論題は「男性の育児休暇取得を強制すべきである」です。Zoomを用いたディベートにやや慣れてきた様子で、POI等の積極的なディベートへの参加が見られました。



予選ラウンド2の論題発表

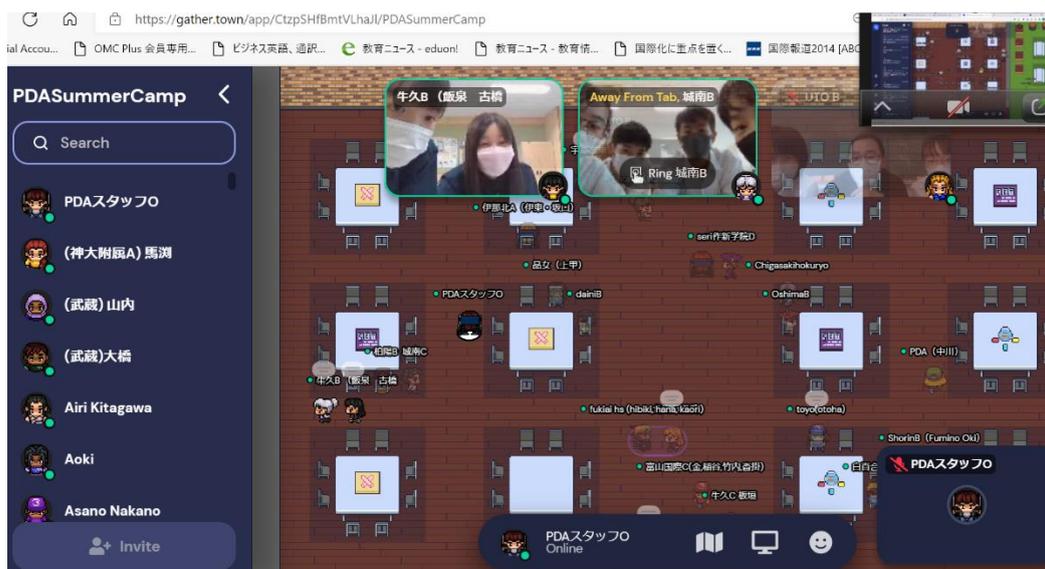
続いて、予選ラウンド2の論題に関するキーノートレクチャーを大阪府立大学の巽真理子先生にいただきました。普段よりジェンダーによる扱いの差を意識する機会が多い生徒たちは興味津々に聞いており、質疑応答もとても活発に行われました。



キーノートレクチャー後、質疑応答の様子

予選3の論題は「外見に関する校則は撤廃すべきである」です。今までの論題の中で最も生徒たちが身近に感じる内容として、友人やクラスメイトの具体例が多く飛び交いました。

昼食前に、ビデオ通話システム Gather.town を用いたレクリエーションが行われました。Gather.town はウェブ上の仮想空間の中で他のユーザーと近づくとも話ができるシステムで、公式の学術学会等でも使用されています。勝てばポイントがもらえるじゃんけん大会やヒントを出し合う謎解きなどで生徒たちは交流を楽しみました。先生やPDAスタッフもじゃんけんに参加し、生徒に挑まれていました。



レクリエーションの様子（じゃんけんで交流しています）



レクリエーションの様子（事前に郵送された謎解きカードを持っています）

そのあと昼食を経て、準決勝進出チーム（授業の部、課外活動の部(一般)）、決勝進出チーム（課外活動の部(初心者)）の発表（ブレイクアナウンスメント）が行われました。予選とは違い、多くの観客が見守る中、準決勝（授業の部、課外活動の部(一般)）、決勝（課外活動の部(初心者)）が開催されました。論題は「オリンピックは中止すべきであった」です。予選ラウンドの議題に引き続き、新型コロナウイルスの影響下で開催されているオリンピックについての論題です。まさに今日行われている東京オリンピックについてリアルタイムな事例も取り入れ、生徒の真剣な意見が交わされました。



準決勝の様子

いよいよ決勝です。決勝の論題は「テレワークは人々を幸せにする」です。2日間オンラインで開催された本大会の最後にふさわしい議論が交わされ、出場者は皆堂々とディベートを行いました。本合宿では生徒がジャッジを経験したため、準決勝や決勝では見学生徒自身も勝敗を出せるよう真剣に観戦しました。



決勝戦の様子

決勝（課外初心の部）

Draw & Allocation

Venue	Government	Opposition	Chairs	Panels
メインルーム	神大付属A	宇都宮A	田村 駿	中山 藍 岩井 玲子



© 一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA), Parliamentary Debate Personnel Development Association

受賞の喜びをチームメイトと分かち合う



参加者の皆さんと

結果

チーム賞 (授業の部)

- 優勝： 作新学院高等学校 A
- 準優勝： 札幌聖心女子学院高等学校 A
- 3位： 作新学院高等学校 B
札幌聖心女子学院高等学校 B

チーム賞 (課外活動の部 初心者)

- 優勝： 栃木県立宇都宮高等学校 A
- 準優勝： 神戸大学附属中等教育学校 A

チーム賞 (課外活動の部 一般)

- 優勝： 聖光学院高等学校
- 準優勝： 神奈川県立柏陽高等学校 B
- 3位： 栄光学園高等学校 B
栄光学園高等学校 C



聖光学院高等学校チーム

ベストディベーター賞 (授業の部)

- 牛久 A _____
- 牛久 C _____
- 城南 B _____
- 熊本第二 A _____
- 武蔵 B・朝倉 _____

ベストディベーター賞 (課外活動の部 初心者)

- 神大附属 A _____ ☆
- 嵯峨野 _____ ☆
- 大島 A _____
- 神大附属 B _____
- 四日市 _____
- 長野 A _____
- 藤島 A _____
- 柏陽 A _____
- 武蔵 A _____
- 翔凜 A _____
- 宇都宮 B _____
- 宇都宮 A _____
- 佐野 A _____
- 一関第一 B _____

ベストディベーター賞 (課外活動の部 一般)

- 聖光 _____ ☆
- 相模原 C _____ ☆
- 栄光 C _____ ☆
- 一関第一 C _____ ☆
- 大島 D _____
- 城ノ内 A _____
- 葺合 _____
- 藤島 D _____
- 湘南 B _____
- 湘南白百合 A _____
- 柏陽 D _____
- 柏陽 B _____
- 栄光 A _____
- 栄光 A _____
- 白百合 A _____
- 翔凜 C _____
- 佐野 C _____

ベスト POI 賞 (授業の部)

- 札幌聖心 B _____ ☆
- 武蔵 B・朝倉 _____
- 熊本第二 A _____
- 城南 B _____
- 城南 A _____
- 作新 B _____
- 作新 A _____

ベスト POI 賞 (課外活動の部 初心者)

- 茅ヶ崎北陵 B _____ ☆
- 神大附属 A _____
- 嵯峨野 _____
- 松本県ヶ丘 B _____
- 伊那北 B _____
- 品川女子 _____
- 宇都宮 B _____
- 佐野 A _____
- 一関第一 A _____

ベスト POI 賞 (課外活動の部 一般)

- 湘南白百合 A _____ ☆
- 作新 D _____ ☆
- 一関第一 C _____ ☆
- 大島 D _____
- 城ノ内 A _____
- 関西創価 _____
- 松本県ヶ丘 D _____
- 藤島 D _____
- 藤島 B _____
- 富山国際 C _____
- 柏陽 C _____
- 柏陽 B _____
- 栄光 C _____
- 栄光 B _____
- 栄光 A _____
- 翔凜 C _____

※☆は3回選ばれた生徒

アンケート（抜粋）

生徒の声

- 本当に貴重な経験をありがとうございます。キーノートレクチャーがためになりました。様々な観点でmotionが出て、いろんな観点について深められました。（神奈川県立相模原高等学校・2年）
- このような大きな全国の即興の練習試合に参加するのは初めてだったため、とても楽しみにしていました。実際に参加して、学ぶことが多く、とても貴重な経験になりました。運営にあたってくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです！ありがとうございました。この2日間で学んだことを生かして全国大会に出場できるように頑張りたいと思います。（鹿児島県立鹿児島中央高等学校・2年）
- とても楽しかったです。自分がやるのも楽しかったですが、準決、決勝を見るのもとても楽しかったです。（神奈川県立柏陽高等学校・1年）
- 初めての大会だったので、緊張しました。まだまだ改善が必要な所が見つかり、参加してよかったと思いました。12月に向けて、改善していきたいと思います！（福岡県立東筑高等学校・2年）
- 今後のディベートにつながる良いアドバイス、経験ができたのでとても良かった。また、レクリエーションを通して他校の生徒と交流できたのも良い経験になった。（東洋大学附属牛久高等学校・1年）
- すごい強いグループとあたり続けたので勉強になりました。また次の試合に向けて頑張りたいです。特に予選ラウンド①のジャッジの方がすごくわかりやすくお話して下さって非常に勉強になりました。（長野県松本県ヶ丘高等学校・1年）
- 今回の予選ではあまり良い結果を残すことができなかつたのでとても悔しい思いをした。先生などに言われたコメントを元にこれから練習していきたいと思う。（鹿児島県立大島高等学校・2年）
- 最初はズームだと聞いて少しがっかりした部分もありましたが、まるで出場者がその場にいるようなレクリエーションの工夫、試合の緊迫感など、大会関係者の努力が実ったことで素晴らしい大会になったかと思います。（栃木県立宇都宮高等学校・1年）
- 初参加で、最初に仲間に誘ってもらったとき、不安しかありませんでしたが、誘いを受けたことに後悔はありません。英語力が上がった実感があり、今後に活かせそうです。素敵な合宿に参加させていただき、ありがとうございました！（作新学院高等学校・2年）
- 多くのディベートを通して、仲間とより親しくなれたし、レベルの高い人とも何度も試合ができて学ぶ事がとても多く、さらに試合ごとにチーム内で反省ができ、とても有意義だった。（岐阜県立岐阜高等学校・2年）
- 3年の私にとって最後の公式試合でしたが、全国の様々な高校と交流を深めることができ、ディベートでは立論の仕方や多角的な考え方など新たに学んだことがたくさんありました。大学や社会に出てからなど今後活かせることをたくさん身につけることができたと思います。（神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校・3年）
- 大会はレベルごとに対戦が違かったので、学べることもあったし、一般では味わえなかった勝利の喜びも感じる事が出来て良かったです。（長野県屋代高等学校・1年）
- レベルの高い皆さんの中で二日間ディベート漬けの日を過ごして、ものの見方、相手へ自分の意見の伝え方、人の話しを聞く力、など様々なことを学ぶことができました。もともとディベートで何もしゃべれなくて大嫌いだっただんたんでディベートが楽しいと感じていることに気づきました。ありがとうございました。（白百合学園高等学校・2年）
- 大学進学後にもディベートは続けたいと思っていて、ディベート大会の運営やジャッジをすることにも興味があります。まだ、分からない事ばかりなので運営に参加できるかは大学生になるまで分かりませんが、今の所、チャンスがあれば参加してみたいと思っています。（徳島県立城ノ内高等学校・2年）

- (ジャッジ体験について) やってる側だと余裕がなくて落としているところまで聞けたし、どう比較してどう対立してるかなどをちゃんと落ち着いて考えられたからです。(神戸大学附属中等教育学校・2年)
- (レクリエーションについて) 今回のようなゲームはとてもいいと思います。これをきっかけに新たに GatherTown のことも知られたように、生徒の皆さんに学習や交流で使ってほしいコンテンツをこれからも提供していただけると幸いです。(関西大倉高等学校・3年)
- 2日間を通し、参加費を大きく上回る価値の体験ができたのではないかと思います。今後の授業に活かしたいことがたくさんありました。楽しかったです。(長野県伊那北高等学校・3年)

教員の声

- コロナ渦でも積極的に大会を続けていただき、感謝いたします。
- 毎年ぜひ続けてほしいです。本当に良い機会でした。ありがとうございます。うちの生徒が、本当にかっこよく見えました！
- 大変ありがとうございました。受験コースを選んで良かったです。気合の入れ方が違っていました。最近できないことが増えてきたのですけれども、スピーチでは、明らかに自分が向上していくのがわかり、まだもう少しやれるやんみたいな変な自信がわきました。ジャッジは、相変わらず難しく時間内にコメントを言うことができなかつたのですけれどもこれはまた自分の課題を克服するために頑張ればいわけであって新たな目標も見つかったのでとても良かったと思います。生徒よりも自分の方がすぐくためになりました。本当にありがとうございました。
- 企画、運営お疲れ様でした。今回も「日々のアップデート」に大いに役立ちました。ありがとうございました😊
- (オンラインディベートのいい点について) 遠くても沢山参加できる、コストレス 教師が生徒を把握しやすい。
- 自分の研修として参加させて頂きました。実は、ジャッジの経験がなく、生徒の試合を自分でもジャッジしながらジャッジの先生がフィードバックするのとかを「ふむふむ😊」って聞いているものと(勝手に)思っていたのが、実際に自分でもすると分かったときや、初心者ではなく課外一般のジャッジになった時、血の気が引いて、あと少しで「とても無理です。誰かと変えてください」とメールを送りそうなほどパニックでしたが、結論から言うと逃げずにやってよかったです。拙いジャッジで生徒さんにはもしかして申し訳ないことをしたかもしれませんが、ものすごく勉強になりました。自分でラウンドもし、ジャッジもすることで、PDA 講習会で生徒が頂いたフィードバックが腑に落ちる感がありました。
- 最後チェアさせていただいて、感謝です。様々な先生、生徒さんと交流させていただき、貴重な経験でした。
- 論題など、随所に授業に取り入れようという工夫が見られて良かった。教員ラウンドを多く担当したが、教員、そしてもちろん生徒も含めて、今後もディベート界が盛り上がっていくことを願っています。
- 運営スタッフの方々には、400名を超える参加者を動かすのは相当ご苦労があったかと存じます。そんな中、検定も含めてスムーズに進行していただき、大変感謝しております。
- 運営の皆様、本当にお疲れ様でした。トラブルに丁寧に対応され、ご苦労も多かったことと思います。生徒の満足そうな顔、悔しそうな顔を見て、有意義な2日間が送れたと実感しております。次はジャッジの試験を受けてみたくなりました。生徒と一緒に頑張っていきたいと思います。
- 昔県の研修で中川先生の講演に参加して以来ずっとディベートの指導をしたいと思っていましたが、今回の大会でようやく一歩目が踏み出せました。スタッフの皆様ありがとうございました。

1.16

PDA 関西高等学校即興型英語ディベート交流大会 2021

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2021年8月21日(土) 13:00-17:00

会場：オンライン(本部：大阪府立北野高等学校)

参加校：6校(堀川高校、奈良高校、神戸高校、彦根東高校、膳所高校、北野高校)

参加者：生徒37名、教員10名

スタッフ：国際教養大学、PDA認定教育ジャッジ・九州大学、PDA認定教育ジャッジ、
PDAスタッフ

主催：一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)

助成：駐大阪・神戸アメリカ総領事館、公益財団法人



開会式では、一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)代表理事中川智皓より、「交流を楽しみながら頑張ってください。」とエールが送られました。次に、今回助成をいただいている駐大阪・神戸アメリカ総領事館のアリシア・エドワーズ領事様より、激励のメッセージとアメリカ留学に関する紹介をしていただきました。エキシビションディベートに選ばれた6名へTOEFLの受験料が進呈される旨についてもご説明いただきました。次に、大阪府立北野高校の天野校長先生より「英語で表現するいい機会になると思います。頑張ってください。」と英語でご挨拶いただきました。次に奈良県立奈良高校の中野校長先生より、「東京オリンピックでも掲げられた多様性と調和の実現の第一歩にしてください。」とご挨拶いただきました。その後、参加した6校の学校紹介やPOI(Point of Information)の練習を行いました。



PDA 代表理事 中川智皓より挨拶



アリシア・エドワーズ領事様よりご挨拶

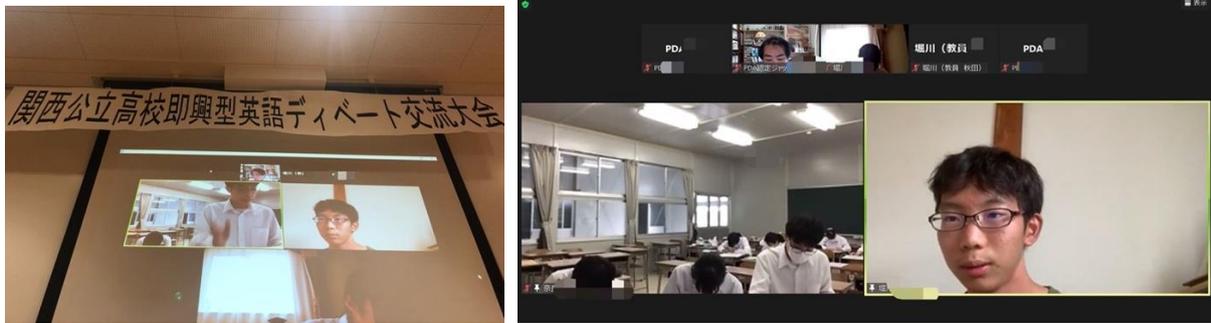


北野高校 天野校長先生よりご挨拶



奈良高校 中野校長先生よりご挨拶

第1ラウンドのお題は「*We should outsource coaching of club activities.*(部活動の指導を外注すべきである。)」でした。コーチは勉強のことを配慮してくれるのか、責任の所在はどうなるのか、先生の負担は減るのか、むしろ増えるのかなど様々な観点から議論が行われました。ディベートが終わり、ジャッジのフィードバックが始まるまでの時間に何年生か、英語の勉強をどのようにしているのかなどのお話で盛り上がりました。ジャッジによるフィードバックでは、主張を強化するためにどのように根拠を説明すれば良いかなど具体的にコメントが行われました。

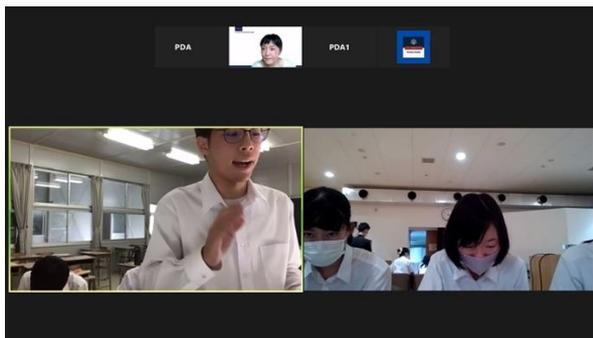


奈良高校 A vs 堀川高校

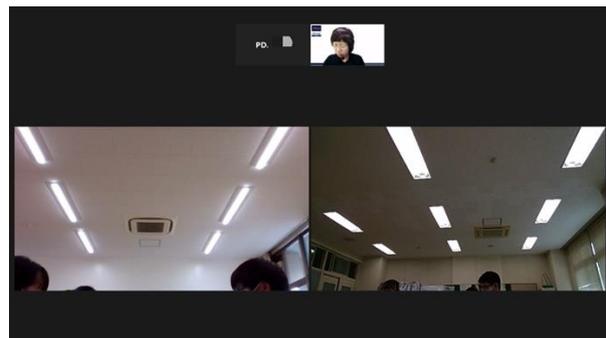


北野高校 B vs 膳所高校 B

続く第2ラウンドのお題は、「*Accepting immigrants does more good than harm.*(移民の受け入れは害よりも利益をもたらす。)」でした。労働力という観点から、受け入れ国にとってメリットがあるのか、それとも受け入れ国の雇用を奪ってしまい逆効果なのかについて議論したり、文化や多様性という観点から議論したりしました。ディベートが終わると、「今日は何時間勉強した?」「交流大会に参加した経緯は?」など、交流を深めました。



奈良高校 A vs 北野高校 A



膳所高校 B vs 神戸高校 B



彦根東高校 vs 堀川高校



ディベート後の交流

そしてジャッジが高く評価した生徒6名によるエキシビションディベートが始まりました。論題は「*Online learning should be introduced in high schools, and students should go to school only three days a week.* (高校では、オンライン学習を導入し、登校日を週3日にすべきである。)」でした。対面とオンライン学習の特徴を深く分析し、オンライン学種導入の是非について活発に意見を交わしました。白熱したディベートとなりましたが、観戦していた生徒の投票により、僅差で Opposition(否定側)の勝ちとなりました。



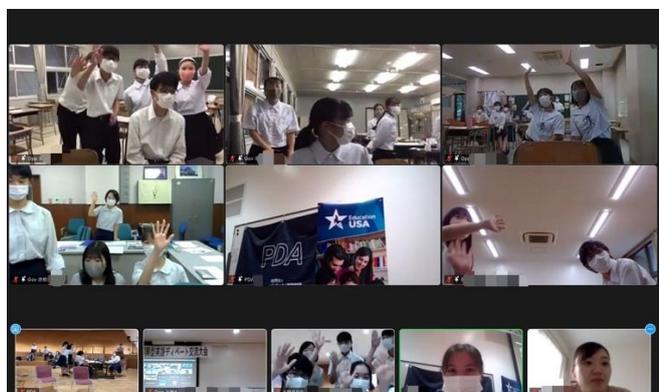
堂々とスピーチ



エアー握手①



エアー握手②



挙手による投票

閉会式では、兵庫県立神戸高校の長澤教頭先生より、「論理的な思考力やプレゼンテーション能力、表現力などを高めることができる素晴らしい大会になったのではないかと思います。これからもこの力を伸ばし続けるよう頑張ってください。」とご講評いただきました。次に滋賀県立膳所高校の富江校長先生より、「他の高校の人と知的でエキサイティングなコミュニケーションが取れたということがとても素晴らしいと思います。」とご講評いただき、関西交流大会の幕を閉じました。



神戸高校 長澤教頭先生よりご講評



膳所高校 富江校長先生よりご講評

【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

- ・PM _____さん (奈良高校)
- ・LO _____さん (北野高校)
- ・MG _____さん (彦根東高校)
- ・MO _____さん (奈良高校)
- ・LOR _____さん (神戸高校)
- ・PMR _____さん (膳所高校)

〈チーム賞〉

- ・ 1位 奈良高校 A
- ・ 2位 神戸高校 A
- ・ 3位 奈良高校 B
- ・ 4位 北野高校 B
- ・ 5位 北野高校 A



1位 奈良高校 A



2位 神戸高校 A



3位 奈良高校 B



4位 北野高校 B



5位 北野高校 A

〈ベストディベーター賞〉 ※★は2回選出

_____さん (神戸 A) ★

_____さん (彦根東) ★

_____さん (奈良 B) ★

_____さん (堀川)

_____さん (神戸 B)

_____さん (膳所 A)

_____さん (膳所 B)

_____さん (膳所 B)

_____さん (北野 A)

_____さん (北野 A)

_____さん (北野 B)

_____さん (奈良 A)

_____さん (奈良 A)

_____さん (奈良 B)

〈POI 賞〉 ※★は2回選出

_____さん (奈良 A) ★

_____さん (膳所 B)

_____さん (北野 A)

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・たった 15 分間の準備時間で焦りつついいディベートをしなきゃというプレッシャーもありましたが、自分の英語力の向上にも繋がり、とても楽しかったです。（神戸高校）
- ・緊張もしましたが良い体験になったと思いました。チームでの即興ディベートは個人の能力だけでなくチームワークが必要だと思いました。（神戸高校）
- ・参加するか迷ったけど参加してよかったなとおもいました！英語でかつ即興でレベル高いなと思いました！もっとスラスラアドリブで言えるようになりたいです！（神戸高校）
- ・オンライン授業など、タイムリーな論題で面白かった。（北野高校）
- ・前回よりけっこう喋れたと思うし、頭も回ったので楽しかった。でも、POI はしてもいいのか、と迷ったり思いつかなかったりして全然できなかったのが次は勇気を出してやってみたい。（膳所高校）
- ・張り詰めた緊張感のなかで意見を述べている自分に成長を感じた。（膳所高校）
- ・お題に対するさまざまな意見が知れて面白かった。（堀川高校）
- ・他校の方とディベートすることはなかなかできることでは無いですし、英語部のみんなで考えて戦えるのはとても楽しかったです。（膳所高校）
- ・時間のないなか、意見を論理的にまとめ、それを英語で述べることの難しさをあらためて感じた。今後の成長につなげていきたい。（膳所高校）
- ・とてもおもしろくてまたやりたいと思った。（北野高校）
- ・ジャッジの先生の手を下さったアドバイスから、自分の改善点がたくさん見えてとても楽しかったです。（北野高校）
- ・高いレベルの中で、深く考え、英語で 〆なんとか意見を伝えようと試行錯誤するのが楽しく、なかなかない機会だと思った。（北野高校）
- ・他府県のトップ校の人達と関わるという滅多にできない体験をでき、本当に楽しかったからです。ディベート後に他の高校の人達とお話できたのもとても興味深かったです。（北野高校）
- ・とても緊張しましたが、チームワークの大切に楽しんでディベートをできたので、良い思い出になりました。（奈良高校）
- ・授業では中々体験できないことだと思うし、同級生や他校の方が活躍されている姿を見て、大きな刺激になった。（奈良高校）
- ・他校の方々との交流ができて良い体験になったし、知らなかった英単語に出会ったことで、自分の英語力の低さに気づき、もっと知りたいと思いました。（彦根東）
- ・他府県の方々と交流が出来たからです。あまりこのような機会が無いので、参加できて良かったです。（彦根東）
- ・興味深い意見のやりとりを聞くことができました。そして、何より、ジャッジの先生の丁寧なコメントが、生徒の更なるやる気を引き出してくださいました。生徒達の頭脳戦。見応えがありました。（教員）
- ・大変貴重な機会となりました。（教員）



大会本部：北野高校

2021 年度神奈川県教員研修(神奈川県教育委員会)

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2021 年 9 月 3 日 (金) 14:00-17:00

会場：オンライン開催(Zoom)

参加者：教員 30 名 (横浜翠嵐高等学校、横浜平沼高等学校、横浜緑ヶ丘高等学校、横浜国際高校、光陵高等学校、希望ヶ丘高等学校、川和高等学校、柏陽高等学校、多摩高等学校、横須賀高等学校、平塚江南高等学校、鎌倉高等学校、湘南高等学校、小田原高等学校、茅ヶ崎北陵高等学校、相模原高等学校、厚木高等学校、大和高等学校)

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ・神奈川県教員

はじめに、PDA 代表理事中川より前回の研修時のアンケートに基づきフィードバックが行われました。「実際に自分でディベートをしてみることによって、ディベートする側にとって何が難しいのかなどの理解に繋がる。」と研修の目的を振り返りました。

アンケートのフィードバック
【研修の目的】

- ✓各校における授業力向上に係る取組の一環として、「話すこと(発表・やり取り)」「聞くこと」を中心とした即興型ディベートを授業に取り入れ、「読むこと」「書くこと」の活動と関連付け、4技能5領域の言語活動の総合的な指導法について研究する。
- ✓即興型ディベートを活用した組織的・先進的な授業実践のモデルを示し、教員による実践・協議を通して、生徒の学力の向上、特に思考力・判断力・表現力等の育成につながる教員の授業力向上の一助とする。
- ✓学力向上進学重点校及びエントリー校の教員同士の交流を通して、自己研鑽意欲の向上を図り、各校において率先して授業改善を図る英語担当教員を育てる。

PDA 代表理事中川による振り返り

その後、PDA ディベート推進委員よりジャッジレクチャーが行われ、ジャッジの役割、勝敗の決め方、フィードバックの仕方、評価項目について説明が行われました。



ジャッジの役割 勝敗の出し方 評価項目(内容) 評価項目(表現)

勝敗の出し方(1:58~参照)

Smoking should be banned. (喫煙禁止)

PM 健康被害
喫煙は健康へ害をきたす
ニコチンが含まれている
中毒性がある
その結果、肺がんなどのリスクがある
自由意志でない可能性がある

LO 反論
喫煙が健康に悪いことはみんな知っている
→自己責任だ!
重要性に対する反論

反論や再構築の評価をする際も、「論理性」と「重要性」に分けて考えると◎

GOOD

- 各ポイントの議論の強度を「論理性」「重要性」に基づいて評価している
- どの反論や再構築[ReplyやPOI]が、どのポイントに、**どのように**効果的だったのかわかったのかを考慮している
- 反論・再構築があった/なかっただけでは不十分

ジャッジレクチャー

その後休憩をはさみ、ディベートの実践を行いました。論題は、“*Cosmetic surgery should be banned.*”（美容整形を禁止すべきである。）でした。ディベーター以外の教員はジャッジとなり、司会進行やタイムキーピング、そして自身の勝敗とその理由の説明を行いました。



ディベート実践の様子

最後に、3つのグループに分かれ、研究授業発表に向けたディスカッションが行われました。



グループディスカッションの様子

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・ジャッジのポイントについて理解を深め、議論全体を見ようという意識ができた。今回ジャッジという立場で参加することができ、前回より客観的に議論を見ることができたと思います。（光陵高等学校）
- ・ディベートは実践していろいろな角度から体験することが大切だと思いました。（湘南高等学校）
- ・今回のディベートでジャッジの先生方から指摘された「一貫性の欠如」は、生徒にディベートやエッセイライティングの指導の際に、大変参考になると思いました。感謝いたします。自分で実践し、客観的なコメントをいただくことにより、とても大切な点に気づくことができたので、やはり定期的に教員もディベート練習が必要だと思いました。生徒に指導するときに、「私も研修の時に失敗しちゃったんだけど」というように前置きすると、生徒もやらされている感が少なくなり、教員も生徒の気持ちに寄り添うことができると思います。生徒と教員の関係性もできるので、より新しいことにチャレンジしやすくなるのではないかと思います。次回もよろしく願いいたします。（柏陽高等学校）
- ・ジャッジのレクチャーの「議論の強度を論理性と重要性に基づいて評価」というのはできないは別としてわかりやすかったです。（横須賀高等学校）
- ・具体例の例示や主張の仕方が参考になりました。（小田原高等学校）
- ・今回初めてジャッジをしました。レクチャーを丁寧にしていただけたので、自分が実践する時にとても参考になりました。ありがとうございました。（横浜平沼高等学校）
- ・ジャッジを体験したが、フローシートを上手に活用できなかった。誰が何に対して反論しているのかを整理できるようになりたい。初めてジャッジを実践したが、個人へのコメントを残す余裕がなかった。さらに見学回数を積んで、ディベートの運営とノートテイキングを同時にできるようになりたい。（光陵高等学校）
- ・フローシートが取って話の流れを把握できるようになってきました。ベテランのディベーターの方の反論の仕方等を参考にさせていただき次回にいかしたいと思います。（平塚江南高等学校）
- ・一番聞きたかったジャッジの方法論がメインの内容でしたので、とても満足しております。（柏陽高等学校）

1.18



PDA 徳島市立高校即興型英語ディベート

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2021年9月18日（土）9:30-11:30

会場：オンライン（Zoom）

参加者：生徒8名

ジャッジ：PDA スタッフ

はじめに PDA スタッフよりルールの確認や POI(Point of Information)の練習を行いました。POI は相手のスピーチ中に行くと質疑応答を要求することができるというルールです。片手を頭に乘せ、もう片方の手をのばして「POI!」と POI のポーズをすることができました。



POI の練習

実践（1）の様子

ブレイクアウトルームに分かれると、役割分担と立論するポイントを何にするか話し合いが行われました。相手チームが主張することを予想しながら、どのような反論をしたら良いか、立論ではどのようなことを盛り込んだら良いかなどについて相談が行われました。

ディベートが始まると、あらかじめ用意していた立論を主張するだけでなく、準備時間中に話し合ったことを活かしながら反論や再構築にもチャレンジしました。

実践（2）の様子

実践（1）でディベートの流れを把握し、実践（2）では準備時間をより効率よく行うことができました。ディベートでは、ジャッジから受けたアドバイスを活かし、重要性を意識したり、具体例を説明したり、スピーチに説得力を持たせるための工夫が見られました。

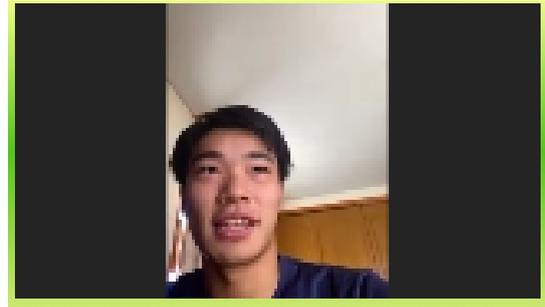


準備時間の様子



スピーチの様子

最後に、2ラウンド目でベストディベータに選ばれた生徒が「最初は不安だったが、ジャッジからのアドバイスや相手チームのスピーチから自分にはない視点を学ぶことができ楽しかった。」「オンラインでチームワークを発揮することの難しさを感じた。」と感想を述べました。



本日の感想

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・難しい議論で色々な意見に触れられた。
- ・自分が考えていなかった意見などが聞けた。
- ・英語で自分の思うように話せない中、どうやって反論して自分の意見を伝えるかを考えるのは楽しかったし、相手の話を聞いて自分にない考え方が入って来てとても参考になった。自分の英語のスキルだったり視野の狭さを痛感したが、それ以上にディベートがどういうものでどんなポイントを言えば良いのかという事が知れてとても嬉しかった。
- ・本当のディベートの対決のようにできて、自分の主張を成り立たせようと感られることが出来て良かったです。
- ・英語で話すのは難しかったが、どう主張していこうかチームで考えることが楽しかった。ディベート後の解説で自分が考えてなかった視点の意見や、改善点など、学べるところがたくさんあった。いい経験になった。
- ・初めての本格的なディベートを行って、とても緊張しましたが、きちんと意見を伝えることが出来たので良かったと思います。それでもまだ説得性にかける所などがたくさんあるので、この経験を活かして、これからも頑張ろうと思います。

PDA 神奈川県高校即興型英語ディベート

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2021年9月19日（日）9:00-11:00

会場：オンライン（Zoom）

参加者：生徒36名（相模原高校、横浜翠嵐高校、小田原高校、平塚江南高校）、教員4名

ジャッジ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ、PDA認定教育ジャッジ・相模原高校、岩手医科大学、東京外国語大学

はじめにPDAスタッフよりディベートの流れの確認、POI(Point of Information)の練習を行いました。POIをする際は頭を片手に乗せ、もう片方の手を伸ばして「POI!」と言うことで質疑応答を要求することができるルールです。ミュートを解除し、POIのポーズをすることができました。

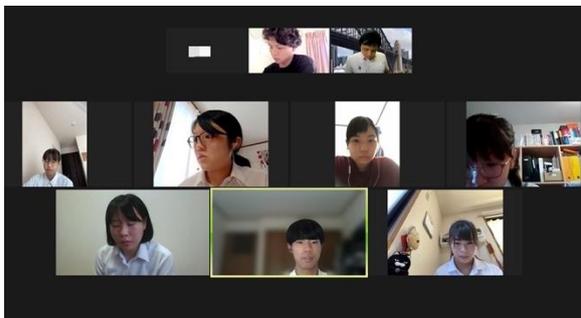


POIの練習

実践（1）の様子

ルールの復習を終えると早速実践です。即興型英語ディベートの体験会に昨年も参加したチームは準備時間を効率よく使おうと相手の話を予想するなど工夫する様子が見られました。今回が英語ディベートは初めてというチームもチームメイトとアイデアを共有しながらポイントを二つ決め、準備を進めました。

ジャッジが勝敗を決めるまでの時間では、お互いの学校の状況や勉強内容、オンラインの勉強ツールをどのように活用しているかなどについて話し、交流を深めました。



ジャッジをみてスピーチ



ディベート後の交流

実践（２）の様子

実践（２）では、実践（１）でジャッジの先生から受けたフィードバックを活かそうと、重要性の説明を意識したり、具体例を意識したりする様子が見られました。

ジャッジからのフィードバックでは、今後を活かそうとメモをとりながら真剣にコメントを聞きました。



準備時間の様子



ディベート後の握手

最後に、２ラウンド目でベストディベーターに選ばれた生徒が「マスクなしでディベートすることで相手の表情が見れて嬉しかった。」「他校の人とのディベートを通して自分では思いつかないことを知れてよかった。」「ジャッジの先生によるアドバイスがためになった。」と感想を述べました。

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・やる前はとても緊張したが、とても楽しかった。（相模原高校）
- ・まだまだ英語力のなさを感じました。なのでもっともっと単語力をつけて行って即興で話せるようになりたいなと思いました。（相模原高校）
- ・他校の人と交流できてすごく楽しかったです。また、改善すべきこともあったので、次回から活かしていきたいです。（平塚江南高校）
- ・自分の意見が伝わったことが嬉しかった。（相模原高校）
- ・最近学校に行くことができず、友達と話すことも少なく、また、他校の生徒と ディベートをする機会が減ってしまっていたので、久しぶりにこのような練習会に参加できて良かったです。（相模原高校）
- ・他校との交流が難しいなかでこういった体験ができるのは貴重だと感じました。（小田原高校）
- ・神奈川県みんなで高めていくという一体感を感じてこれからも交流していきたいと思いました。（相模原高校）
- ・ジャッジの先生方がひとりひとりにコメントをくれて、自分の良かったところとか改善点とか分かりやすく説明してくれて、自信にもなったし、もっとディベート頑張りたいと思いました。ありがとうございました。（小田原高校）
- ・最初は上手く喋れるか緊張していましたが、自分の意見を自分なりに主張することが出来たので嬉しかったです。また、他の人の意見を聞くことができ、とても勉強になりました。もっと英語で話せるようになりたいです。（平塚江南高校）
- ・新しい経験ができて、楽しかったです。自分の語彙力やディベート力が足りないため、思い通りに自分の意見を述べることができず悔しいです。もっと英語力をつけて、ディベートのみではなく生活にも活かしたいと思える体験でした。（相模原高校）
- ・今年はマスクを外して、全員の顔が見える形で、直接会って話しているような感覚で、そういったものが久しぶりなのもあって、本当に楽しかったです！ディベートとしての意見を聞いたのも本当にいい経験となりました！（横浜翠嵐高校）
- ・相手の方で発音よくスラスラその場で考えたことを英語にして話している人がいて、本来即興ディベートなわけで私も自分の考えをすぐに英語にして話せるようになりたいと感じました。はじめは自分が全然できないのに参加して大丈夫か心配でしたが、やっぱり上手い人のディベートを聞いて損はないし得られたものが大きかったので良かったです。次他校の人とディベートする際はもっと沢山の交流が出来たら嬉しいです。（横浜翠嵐高校）

ベストディベーターに選ばれた皆さん

(実践1)

_____ (小田原高校)
_____ (相模原高校)
_____ (平塚江南高校)
_____ (相模原高校)
_____ (横浜翠嵐高校)
_____ (平塚江南高校)
_____ (相模原高校)

(実践2)

_____ (横浜翠嵐高校)
_____ (相模原高校)
_____ (平塚江南高校)
_____ (相模原高校)
_____ (相模原高校)
_____ (横浜翠嵐高校)
_____ (相模原高校)
_____ (相模原高校)

ベスト POI に選ばれた皆さん

(実践1)

_____ (平塚江南高校)
_____ (相模原高校)

(実践2)

_____ (横浜翠嵐高校)
_____ (相模原高校)
_____ (小田原高校)

1.20

PDA即興型英語ディベート北海道交流大会 2021

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2021年9月23日(木) 09:30-13:30

会場：オンライン

参加校：3校(北海道釧路湖陵高校、北海道札幌南高校、神奈川相模原高校)

参加者：生徒12名、教員4名

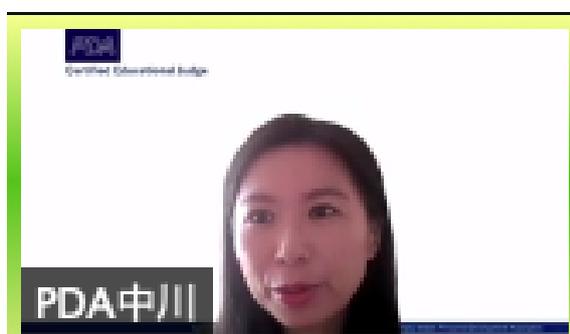
スタッフ：九州大学、PDA認定教育ジャッジ・相模原高校、PDAスタッフ

主催：一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)



開会式では、一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)代表理事中川智皓より、「異なる高校との交流を楽しんでください。」とエールが送られました。次に、札幌南高校の手塚先生より、「論題はタイムリーであったり、身近なトピックであったり様々ですが、とても考えていて奥深いと感じる論題です。即興性を堪能しながら頑張ってください。」と激励のメッセージをいただきました。

その後、参加した3校の学校紹介やPOI(Point of Information)の練習を行いました。POIの練習では、ミュートを外し、「POI!」と言いながらPOIのポーズをすることができました。



PDA代表理事 中川智皓より挨拶



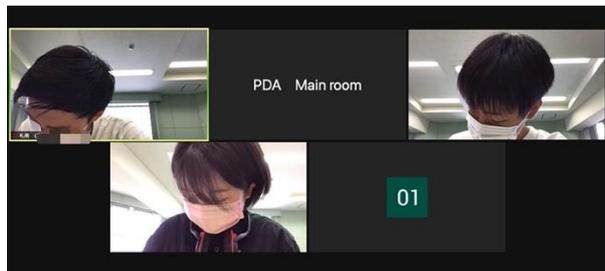
札幌南高校 手塚先生よりご挨拶



POIの練習

第1ラウンドのお題は「*We should outsource coaching of club activities.*(部活動の指導を外注すべきである。)」でした。部活動の質はコーチを外注することで向上するのか、教員の負担は軽減されるのか、部活動で重要なこととは一体何かなど様々な観点からディベートが展開されました。POI もたくさん飛び交い、単語の意味を確認する POI に始まり、ポイントの重要性に関する POI など戦略的な POI も見られました。

ディベートが終わるとエアークラッシュを交わし、お互いに説明したポイントの確認や、普段英語の勉強をどのようにしているかなどについて話し、交流を深めました。

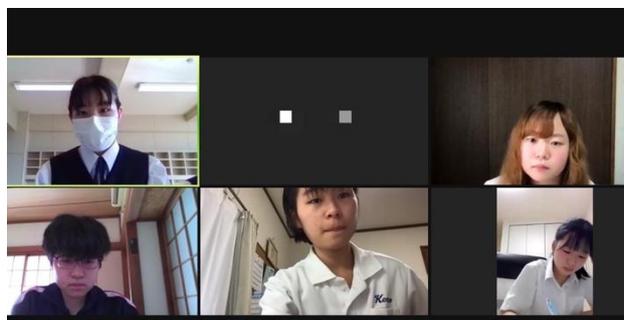


準備時間の様子（札幌南高校）

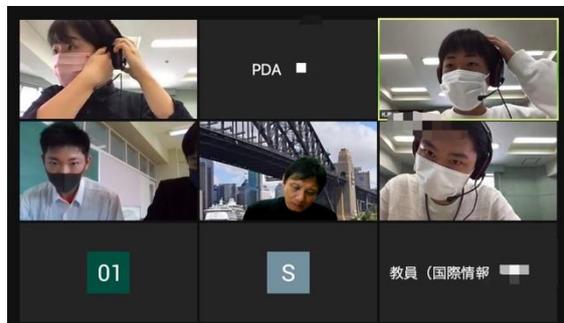


釧路湖陵高校 A vs 相模原高校

続く第2ラウンドのお題は、「*Single-sex schools are better than co-educational schools.* (共学より男子校または女子校のほうがよい。)」学業に集中するためには共学でない方がいいのはいいか、男女間の偏見を強めることにならないか、相互理解のためには共学がいいのではないか、など学業面ではなく社会面からも議論が行われました。



堂々とスピーチ（釧路湖陵高校 B vs 相模原高校）



POI で質疑応答（札幌南高校 vs 釧路湖陵高校 A）



ディベート後の交流



ジャッジからのフィードバック

そしてジャッジが高く評価した生徒6名によるエキシビションディベートが始まりました。論題は「**Teleworking makes people happy.** (テレワークは人々を幸せにする。)」でした。健康のことを考えるとコロナ禍ではテレワークの方が良い、様々な人とオンラインで会う機会が増えて良いという **Government**(肯定側)の意見と、労働環境として良くない、人間関係がうまくいかないという **Opposition**(否定側)の意見がぶつかり、POI も交わしながら白熱したディベートを繰り広げました。甲乙つけがたいディベートでしたが、観戦していた生徒と教員の投票により、**Opposition**(否定側)の勝ちとなりました。



画面の向こうにいる聴衆へアイコンタクトしながらスピーチ



ディベート後はエアークラップをしてお互いの健闘をたたえ合いました

【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

- ・ PM _____さん (釧路湖陵高校)
- ・ LO _____さん (札幌南高校)
- ・ MG _____さん (札幌南高校)
- ・ MO _____さん (相模原高校)
- ・ LOR _____さん (釧路湖陵高校)
- ・ PMR _____さん (相模原高校)

〈チーム賞〉

- ・ 1位 札幌南高校
- ・ 2位 釧路湖陵高校 A
- ・ 3位 釧路湖陵高校 B



1位 札幌南高校



2位 釧路湖陵高校 A



3位 釧路湖陵高校 B

〈ベストディベータ賞〉

- ・ _____さん (相模原)
- ・ _____さん (相模原)
- ・ _____さん (相模原)
- ・ _____さん (札幌南)
- ・ _____さん (札幌南)
- ・ _____さん (釧路湖陵 A)
- ・ _____さん (釧路湖陵 A)



〈POI 賞〉

- ・ _____さん (相模原)
- ・ _____さん (相模原)
- ・ _____さん (札幌南)
- ・ _____さん (札幌南)



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・ 自分よりはるかに高いレベルの方の主張を聞くことができ、普段触れ合うことの無い離れた地域の高校の方と触れ合うことが出来た。主張を考える力だけでなく、考えた主張を相手とジャッジに伝えるための英語力が足りないと感じました。(釧路湖陵高校)
- ・ とても楽しかったです。はじめての参加でとても不安でいっぱいでしたが、学べたことがとても多く身になりました。次のディベートではこうしようという見通しが持てたので、本当にこのような機会を設けてくださった皆様そして参加者の皆様、本当にありがとうございました。また機会があれば、是非参加させていただきたいです。もっとディベートを上手になりたいなと思いましたので、日常生活から頑張っていきたいと思います。(釧路湖陵高校)
- ・ 英語で話すことの楽しさや魅力、上手い人の良さを知ることができ、良い機会となりました。(釧路湖陵高校)
- ・ 今まで即興ディベートの大会に参加したことがなく、他校と即興ディベートをする機会がなかったが、この交流会を通して様々な高校と色々なお題でディベートできて楽しかったです。即興ディベートをあまりやったことがなかったけど、チームメンバーと楽しくディベートできて、とても貴重な経験になりました。(札幌南高校)
- ・ コロナ禍で他校とコミュニケーションが取れない中、他県の高校とも関わって楽しかったです！！(札幌南高校)
- ・ 北海道の方々の練習状況や、新しい観点、また、ジャッジの方々のとてもわかりやすいフィードバックが聞けてよかったです！(相模原高校)
- ・ 授業でディベートの要素を取り入れた実践を進めていきたいと考えています。また、遠隔の高校生同士がオンラインでディベートができるのは素晴らしいと思いました。北海道でも仲間を増やしていきたいです。お力添えのほどどうぞ宜しくお願い致します。(教員)
- ・ 英語を使用してコミュニケーションを取ろうと頑張っている生徒の姿が素晴らしいです。トピックや議論の論点も興味深いですし、ジャッジのコメントも大変勉強になります。(教員)
- ・ レベルの高い生徒さんのディベートはもちろん、ジャッジの方のコメントが大変参考になりました。今後の自分の授業にも生かしたいと思いました。(教員)

PDA 神奈川県高校即興型英語ディベート

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2021年9月25日（土）9:00-11:00

会場：オンライン（Zoom）

参加者：生徒21名（横浜国際高校、柏陽高校、相模原高校）、教員4名

ジャッジ：PDAスタッフ、柏陽高校、岩手医科大学、立命館大学

はじめに、PDAスタッフよりディベートの流れの確認や準備時間の使い方についての説明、POI(Point of Information)の練習を行いました。POIは相手チームがスピーチしている際に質疑応答を要求することができるルールです。お互いの議論を深めるために行います。POIお決まりのポーズを全員で練習することができました。



POIの練習

実践（１）の様子

対戦表と論題が発表されると、ブレイクアウトルームにてディベートの準備時間が始まりました。お互いの役割を決め、アイデア共有をし、自分たちが立論スピーチを行うポイントを決めていきました。ディベートではPOIも飛び交い、“Could you give us any specific example?”と質問するなどお互いのスピーチをより理解しようとする様子も見られました。



ディベートの様子

実践（２）の様子

実践（２）では、よりスムーズに準備時間のディスカッションを進めることができました。実践（１）でジャッジから受けた「具体的な例を説明する」などのフィードバックを活かそうと準備をする様子が見られました。ディベートが終わると、お互いに何年生か、お互いにディベートしてみようと思ったきっかけは何か、コロナ禍での勉強はどうかといったことについて話し、交流を深めました。



ディベートの様子



POI！

ディベート後の交流の様子

最後に、２ラウンド目でベストディベーターに選ばれた生徒が「交流できたことが楽しかった。これからも一緒に頑張りましょう。」「緊急事態宣言下でもディベートができて刺激をもらった。」「コミュニケーションやペアワークの機会が減っている中、オンラインでディベートできて良かった。」と感想を述べました。



本日の感想

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・自分が如何にできないかがよくわかった。悔しい。そんな感情が出てくるのが楽しい。
（柏陽高校）
- ・コロナ禍で他校の生徒と関わる機会が最近はなかったので交流をととても楽しむことができました。初めてのディベートで初めは不安でしたが、先生方から貴重なフィードバックを頂けたので今後に生かしたいと思いました。（横浜国際高校）
- ・他校の方と対戦する機会はありませんので、たくさん刺激を頂けて、良い経験になりました。また、普段とは違った judge を受けることができたのも、新しい視点を得られて良かったです。（柏陽高校）
- ・他校の方も先生方もみんな凄く親切で、安心して話すことが出来ました。また、ディベートの後に他校のこと直接お話をして交流が出来て嬉しかったです。（横浜国際高校）
- ・他校の皆さんとディベートをすることができて、自校の雰囲気とは異なる落ち着いた話し方を参考にすることができたり、英語の発音がすごく綺麗で聞き取りやすかったりと吸収すべきところがとても多く、勉強になったからです。（柏陽高校）
- ・他校の先生にアドバイスを貰えたことと、何より他校の生徒さんたちから刺激をもらったので、これからディベートを重ねてもっと技能を伸ばしたいと思えるようになりました！
（横浜国際高校）
- ・このように他校の人とディベートをするというのは初めての機会です、普段にはない緊張感がありました。即座に反論を考えるというとても難しい経験を通して、自分の課題も見えたのでとても良かったです。（横浜国際高校）
- ・このように他校の人とディベートをするというのは初めての機会です、普段にはない緊張感がありました。即座に反論を考えるというとても難しい経験を通して、自分の課題も見えたのでとても良かったです。（横浜国際高校）
- ・初めは緊張していたのですが、ディベートを行っているうちに段々自分には無かった観点を知ることができたり、話すこと自体失敗をしても討論を楽しんでいると感じることができました。（横浜国際高校）
- ・とても緊張していて、英文も出てこないし難しかったのですが、やっていくうちに反論も出てきてチャットを通してチーム内で協力しながらできたことがとても良かったです。同じ学校でも関わったことの無い人たちと関わって良かったです！（相模原高校）
- ・他校の生徒さん交流出来て楽しかった。（相模原高校）
- ・他校の生徒さんの元気な様子を知れて良かったです。（教員）
- ・コロナ禍ですが、オンラインのおかげで他校の先生方とも交流することができ、情報交換ができました。貴重な機会をありがとうございます。（教員）
- ・他校の生徒と英語で交流できるととても贅沢な時間だったと思います。（教員）

ベストディベーターに選ばれた皆さん

(実践1)

_____さん (横浜国際高校)
_____さん (横浜国際高校)
_____さん (柏陽高校)

(実践2)

_____さん (柏陽高校)
_____さん (横浜国際高校)
_____さん (柏陽高校)
_____さん (横浜国際高校)
_____さん (横浜国際高校)

ベスト POI に選ばれた皆さん

(実践1)

_____さん (柏陽高校)

(実践2)

_____さん (柏陽高校)
_____さん (柏陽高校)
_____さん (横浜国際高校)
_____さん (相模原高校)

PDA 東京都立日比谷高校即興型英語ディベート

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2021年9月30日（木）13:30-15:30

会場：オンライン（Zoom）

参加者：生徒 31名

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ、九州大学、東京外国語大学

はじめに PDA スタッフよりルールの確認や POI(Point of Information)の練習を行いました。POI は相手のスピーチ中に質疑応答を要求することができるルールで、お互いのポイントの理解を深めたり、議論を深めたりすることに繋がります。練習では、元気よく立ち上がって片手を頭に乘せ、もう片方の手を伸ばす POI のポーズをすることができました。



POI の練習

実践（１）の様子

「即興型英語ディベートをするのは今日が初めてだという人は手をあげてください。」というほとんどの生徒が手をあげ、やや緊張気味の様子で始まった実践（１）。しかし、ディベートが始まると準備時間にチームメイトと話し合った内容や自身で考えたアイデアをしっかりと英語でスピーチすることができました。

実践（２）の様子

実践（２）ではより具体的な内容のディベートが展開されました。特に立論だけでなく、反論や再構築、比較や POI の面でも「理由を説明する」「具体例を述べる」など実践（１）で受けたフィードバックを元に説得的な説明を行うことができました。



アイコンタクトをしながらスピーチ



ディベート後のエアークラップ



ジャッジによるフィードバック

最後に、2ラウンド目でベストディベーターに選ばれた生徒が「相手のスピーチを聞いてすぐレスポンスすることが難しかったが楽しかった。」「すぐ考える力が身につくそうだった。」「相手の話を聞いて返答することができてよかった。」「普段からいろんなことを知って考えることが人を説得する上で重要だと感じた。」と感想を述べました。



本日の感想

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・授業でもとり入れてほしいと思った。
- ・本当に楽しかった、しかし自分の英語力の無さを実感した。なのでもっと実践的なことをして慣れていきたい。
- ・相手が言っていることを瞬時に理解し反論を考えることはとても難しかったけれど、第一ラウンドよりも第二ラウンドのほうが成長を感じられて楽しかったです。この経験を生かして今後の話し合いでも論理的で説得力のある発言をしていこうと思いました。
- ・短時間で用意して意見を述べるのはとても難しかった。だが、他のチームメイトと共有したりしてチームワークを確認したり、相手の出方を讀んだりするのは面白かった。
- ・英語を使うという実感を持つ事が出来た貴重な体験でした。聞き手の立場から自分の意見をまとめて伝える事の難しさ、大切さを学びました。
- ・日本語でもディベート出来ないと思っていたが、話さなければいけない環境で自分の意見を出し、アドバイスもたくさんもらったので貴重な体験でした。
- ・ディベートを楽しむことができ、たくさんアドバイスを頂くことができたので、とても良い経験になりました。個別に改善点を教えていただけてことが、とてもありがたかったです。
- ・自分の意見を日本語で言うのでも少し難しいときがあるので英語で自分の考えを 2~3 分も話すのはとても怖かった。一回目はあまり筋道立てて分かりやすく言えなかったと思うが二回目は具体例などを交えて分かりやすく話すことができたから達成感を感じることができて良かった。
- ・色々な人の意見を聞いたり自分で意見を伝えたりして、英語の勉強になっているという実感がありました。素敵な機会をありがとうございました。
- ・英語は辿々しく、なかなか反論も出来なかったが、またやってみたいと思った。
- ・始まる前はすごく緊張したが自分なりに意見を言えてよかった。